

## Peppolが輝かせる「主役」たち ～ゆいまーる沖縄と工房・職人の挑戦とこれから～

2025年4月10日、デジタル庁は、ゆいまーる沖縄株式会社（鈴木修司代表取締役社長、沖縄県島尻郡南風原町）を往訪し、Triplo M's S.A.（菅原淳矢CEO、スイス）の協力を得て行ってきたPeppol e-invoiceの取組について「振り返り」をしました。



ゆいまーる沖縄株式会社関係者と工房・職人の皆様



海外事業者によって購入された沖縄の伝統工芸品

この取組では、デジタルを活用し、沖縄の伝統工芸品の価値を高めることを主目的とし、その中で作られた個々の伝統工芸品に係る情報（データ）を請求にも連携し効率化を実現していくことを目指しました。

取組が行われた5か月（2024年11月～2025年3月）の間に85件のデジタルインボイスのやり取りがありました。その中には、ゆいまーる沖縄株式会社から海外の事業者に対して送られた10件のデジタルインボイスも含まれています。

「振り返り」では、リアルな実証の中で得られた貴重な経験や課題が参加者間で共有され、自らの既存の業務プロセスの見直しも含め、本格実装に向け準備を行っていくことの必要性が確認されました。